

学園小学校 学校だより



一生懸命にがんばった運動会！

5月31日(土)第34回学園小学校運動会が開催されました。前日の昼頃まで雨予報でしたが、当日は太陽が顔を出し、青空が見える晴れとなり、これまで練習した成果を思う存分に発揮することができました。全校児童の元気あふれる笑顔の堂々とした入場からスタートして、ラジオ体操、応援団の応援合戦と、始まってからずっと目が離せない運動会となりました。

また、リレーやかけこでは真剣に走る眼差しや、スムーズなバトンパスなど、見ている保護者も固唾をのむ白熱した戦いを見ることができました。そして何よりも学団での表現は、大変な練習を積んできたのだらうと感じる、キレキレの体の動きで、どの保護者も感動して目頭が熱くなったという声が漏れ溢れていました。すべてのプログラムを通じて、本当に思い出深い、感動的な運動会でした。



全体練習の初めに「校長先生は吉本新喜劇が大好きで毎週見えています。見ていると「面白い」ですが、楽しくはありません。本当に「楽しい」と思うのは、「一生懸命に自分の体を動かしたときに感じる」のです。」とお話しました。運動会までの各学年の練習を見ていると、本当に一生懸命に取り組んでいました。ですので、今回の運動会は本当に「楽しめた」のではないのでしょうか。

「楽しい」の内容は、何も勝ってうれしいだけではありません。負けて悔しいも含まれます。一生懸命にやらない人たちに勝ってもうれしくありません。一生懸命にがんばっている仲間から勝つからうれしいのです。一生懸命に取り組まなかったら負けてもよくありません。一生懸命に取り組んだからこそ楽しいのです。勝負事ですから、どちらかが勝ちどちらかが負けます。どちらも一生懸命に取り組んでいたのなら、どちらであれ、清々しい気分になるのではないのでしょうか。

第34回学園小学校運動会は、子どもたちの一生懸命に取り組んでいる姿が見られた素晴らしい運動会でした。

<保護者の運動会の感想>一部抜粋

- ◇みんなの一生懸命な姿を見て良かったです。
- ◇後ろを向いて踊っていたので残念だと思っていましたが、途中でちゃんと顔が見られる場所で踊っていたので親としてはうれしかったです。どの競技も全児童一生懸命で素晴らしかったです。
- ◇子どもたちの元気いっぱい頑張っている姿、本当に素敵でした。
- ◇運動会は楽しかったと言って帰ってきました。でも負けて悔しいとも言っていました。子どものこの気持ちはすごく大事な感情だと思うので、今後も順位のある運動会だといと思います。
- ◇児童が一丸となって楽しんでいる姿を見て、私たち親も楽しく応援することができました。
- ◇高学年の演技は集中力もありさすが!!見る人を引き付ける素晴らしいものでした。
- ◇楽しそうにしている姿、気持ちが伝わってくるような瞬間を見ていると、ここまで成長してきたことをとても嬉しく思います。
- ◇法被姿もとても格好よく、背中の中の文字のチョイスにも個性があつてとても楽しめました。
- ◇負けでしたが、そこまでくやしがつてはいませんでした。勝敗よりも懸命に取り組む楽しさや達成感を存分に味わえたのだと思います。
- ◇どの子を見ても成長を感じたと共に、毎日一生懸命練習してきたことが伝わってきました。負けて悔し涙を流している子もいて、その涙さえも感動で、すごく素敵でした。
- ◇遠方から来た家族も、「これは見に来た価値がある!」と絶賛で、とても印象的です。やっぱり学園の子って素敵だなと感じました。

※多数のご感想、本当にありがとうございました。

6月の子どもたちの様子！



トライやるウィーク(6/3~/6)



1年生食育指導(6/4)



4年生クリーンセンター出前授業(6/4)



学園タイム(6/9)



学園タイム〇×クイズ(6/9)



3年生昆虫観察(6/12)



学園タイム今月の歌(6/16)



学園タイムプール掃除報告(6/16)



3,4年生プール開き(6/16)



1年生図工作品(かき氷)

学校いじめ防止基本方針を改訂しました。

本年度4月7日付で学園小学校の「学校いじめ防止基本方針」を改訂しました。これまでも「いじめ」に対する取り組みを進めておりましたが、年々子どもたちを取り巻く状況が変化し、特にインターネット（SNS等）での誹謗中傷や個人情報無断掲載など、多くの問題が発生しているため、これまでの基本方針を見直し、改訂を行いました。

平成25年度いじめ防止対策推進法の施行に伴い、「いじめの定義」が平成18年度のものから変更され、すでに10年以上経過しています。「10年」はみなさんにとって「ちょっと前」ですか？それとも「だいぶ前」ですか？先にも述べたようにインターネットにおける情報社会において「10年」は、もうかなり昔になってしまうのではないのでしょうか。SNS等のルールやモラルについても1年1年で変化していきます。「いじめ」についても「いじる」という行為が「いじめの始まり」⇒「いじめ」であると認定されるようになりました。

「いじめ」の行為にはどんな言い訳も通用しません。「いじめられる理由」など存在しません。そのことをしっかりと理解しているはずなのですが、残念なことに未だに「いじめ」が無くなりません。だからと言って放っておくことはできません。人は弱いものです。どうしても心に弱いところがあったり、年齢的に未発達、成長していないところがあって、「思わず…」や「そんなつもりではなく…」、「みんなが…」等で、人の心を傷つけてしまうこともあります。特に小学校では、年齢的な発達段階で、友達の気持ちを考えられずというケースがあります。ですので、学校教育では「いじめゼロ」を目指すのではなく、「いじめ見逃しゼロ」を目指し、小さなことでも「いじめのはじまり」ではないかと取り組んでおります。そして担任や一部の教職員だけでなく、「いじめ対応チーム」で小さなことに対してどのように取り組んでいくのかを協議し、チームで対応していきますので、ご承知ください。

なお、「学校いじめ防止基本方針」は学園小学校のホームページにありますので、ご覧ください。

※学園小 HP: <https://www.city.sanda.lg.jp/soshiki/edu/sho/gakuen/index.html>

「考えて行動できる力を伸ばすには…」(校長の独り言)

先日、母方のいとこ会がありました。私の母は7人兄妹で、いとこが16人もいます。年齢は70歳過ぎから50歳ですが、仲も良く、毎年集まって近況報告(主に病気や孫の話…)等をしています。

私が教師をしていることもあって、話題は子育てになることが多く、みんなの子育て持論をぶつけてきます。昭和の人たちなので、昔ながら子育て持論が多く、苦笑いをしながら聞いています。

そんな中、「じいじが怖いからちゃんとこっちの顔色を見て、孫は動きよるよ。あれしろ、これしろってうるさいからな(笑)」煙たがっている孫たちの顔が思い浮かんだ。さらに続けて「最近の子どもたちは、言われたことはそれなりにできるけど、自分で考えて何かしようとしな。あかん(ダメ)よね?」と聞いてきたので、将来煙たがられてお小遣いだけをせびられるおじいちゃんになってはかわいそうだと思い、アドバイスをすることに。

「確かに自分で決められない子どもが増えていることは間違いない。でもそのような子どもたちにしやったのは大人のせい、親のせい、先生のせいかもしれない。さっきも「あれしろ」「これしろ」って指示しやってますよね?子どもに考える余地(時間)がありません。他にも「あれはダメ」「これはダメ」とYes(はい)No(いいえ)のどちらかを指示していませんか?このような状況では「考える力」は育ちませんよ。」



「ほ～、なるほどね…」先程まで口数が多かった従兄が口を一文字にして黙った。たぶん頭の中では(じゃ、どうしたら良いのだろう…?)と考えている様子だった。

「どんな状況でも自分で考えて行動できれば素晴らしいことですが、知識も経験もない子どもたちが何かを考えて行動するなんて、かなり難しいことですよ。だから初めは2択の提示をしてあげるといいですよ。AかBかのように。ただ、その判断をするための知識も経験もない小さい子には、Aは…、Bは…と解説もつけて、どちらかを選ばせてあげるのです。

この場合、AとBの提示は大人側ですが、最終決定は「子ども」自身となる。これが大事なところですよ。この小さな経験を数多く経験することで子どもは自分で考えて行動できる力を伸ばしていくのです。だんだんとできるようになってくれば、2択から3択、4択と増やし、その後、『どんな選択(事)が考えられる?』と自分で選択肢を考えさせると、とどンドン考えて行動する力が伸びていくんですよ。」

「なるほどな!さすがやね!!」と背中をバシバシ叩かれた。

その話を聞いていた元 ANA パイロットの従兄が「最近の大人でも自分で考えて行動することができない人間が増えているよ。副操縦士の機長訓練でも前方に雷雲があるよ、どうする?って尋ねると「どうしたらいいですかね…」と逆に質問してくるのよ。だから、機長教育でも全く同じことをしているよ。①雷雲に突っ込む②雲の下を飛行する③高度を変えず避けるって。」

「そんなの③に決まってますやん」と従兄妹みんなで答えたら…

「それがな、その副機長が「①だったら大変なことになりませんか?」だって。分かっているんやったら、早く旋回しろよ!って。時速800kmで飛んでいる飛行機は10秒で約1.2km進むんだぜ。大変なことになりませんか?って言う間に雲に突っ込むぞ!」

飛行機の世界は簡単に想像できないが、子どものころから「考えて行動できる力」を身に着けることはとても大切なことだと言える。しかしながら「考える」ためには「考える」練習が必要で、それは国語や算数の授業で取り組んでいる。しかし、AかBかの判断するための知識や経験はどこから、何から身に着けるのだろうか…。となると、小さい頃から大人が選択肢の提示をしてあげて、経験を積むことしかないのです。

もちろん年齢が上がれば、本やインターネットなど様々な情報から知識を得て、判断する材料を獲得していく。しかし、小さい子どもにはその知識獲得の能力も判断する材料もない。だからこそ、小さな経験を重ねていくしかないのです。

「私は、子どもの意見を尊重しています。」という保護者がいましたが、先にも述べたように判断する材料を持っていない子どもは、どのように判断するのでしょうか。知りもしない言語で書かれた説明でどちらかを選んで言われたら、皆さんはどうしますか?当てずっぽう?カン?...それを「あなたが選んだのでしよう!」と言われても困りますよね…。」

現在、情報機器端末の小さな窓を除けば、様々な情報を獲得できます。一見、誰であろうと多量の情報を得られる素晴らしい時代だと言えますが、その情報が本当に正しいことなのか、犯罪や不正につながっていないかなどの判断する力を誰もが持っているのでしょうか。また他人の知識や経験を、取り出して複写(コピー)することが「考える力」を伸ばすことになっているのでしょうか。

「考えて行動できる力を伸ばす」には、一朝一夕ではいかないようですね。しかしながら、日頃からのちょっとした声掛けを工夫するだけで、少しずつではありますが伸びていきそうですね。

